





# 私服警官が市民に差別発言大連発

毎年、高齢・病弱・労災被害等で野宿を余儀なくされ、路上や駅の構内で七くたわって行く人々(行旅病死者)は、西成区だけでも年間約500人。この冬もそんな野宿者の、いのちを守るための「越冬闘争」人民パトロールに、釜ヶ崎の労働者を中心とする多くの学生、女性、子どもが参加しました。しかし、ヤウザのヤミ手配を黙認する行政は、こうした私たちの活動に警察権力を使って弾圧しているのが現状です。

1月2日の夜、釜ヶ崎と梅田間のパトロール中にも、大阪府警・西成署は約400人の機動隊員、警察官を動員して、私たちの行く先々を閉鎖。そして、地下街、駅の構内では機動隊のかわりに、私服警官がパトロール隊に張りつき、女性や女子高生に対して、卑劣な暴言を浴びせてきました。「アスノ」「オッサン」  
「おまえら、オッサンにやらせてんのやろ。公衆便所!」  
さらには指を指す(裏面にづく)



アポロキマワアヒマスワを交換した「公僕」梅田地下街で  
=91.12 梅田地下街で

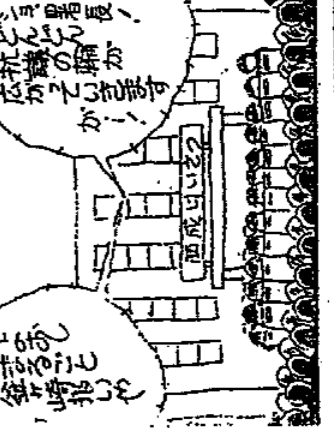
# またか、西成署? 警官の暴行行為!!

●この顔に"ピン"ときたら... (手配中)

おまえら、オッサンにやらせてんのやろ。  
公衆便所!

第21回釜ヶ崎越冬闘争実行委員会  
警察官の暴力行為を許さへん会  
連絡先・Tel 06(645)7751「こともの里」(64)7183「旅路の里」(632)4273「釜田坊」

カマヤン 人民パト 91.1.3 朝日から港



# 謝罪要求に機動隊300人の暴行!



あつちんのふりそむる私服警官 1.3 西成署前

アウ・サイ)とて女性たちを笑う。といった性的いやがらせ。怒れた私たちが抗議の声を上げ、「謝まれ」とつめよると、なんとその暴力警官は、仲間一人を駅の石段から蹴り飛ばし、私服警官の波の中に逃げこんでしまいました。

**しか**、その現場を多くの仲間がしかりと目撃。目撃者は平然と写真ビデオ、監視カメラで私たちの人権(肖像権)を侵している警官に抗議して、この日は暴言を吐いた私服警官の顔写真を取り返しました(④公務中の警官に肖像権はありません。翌日、1月3日の釜ヶ崎内での人民パトロールでは、再び防衛行動に出ていた私服警官の群れの中に、暴力警官が暴行。「この男や、謝まれ」。暴力警官はたちまち顔をオオでかくし、他の私服警官に守られながら、西成署に逃げこみました。あの私服警官を出せ!」  
「まのこの行為について説明しろ」。私たちの正当な謝罪要求に

対して府警西成署は、ただちに機動隊の増派。西成署前を包囲した。30名以上の機動隊員がとり囲み、たまたま30人以上も機動隊員がとり囲み、なんやこれば?」「前退避しろ」として、前退避しろとする仲間たちの体には、シラレミの権や権は権が直撃してしまいました。

**足**がかりで膝をメタメタ打ち、これぞ緊急事態に引かす。こまれた少年。機動隊指揮官から機動隊を降りつけられ、全治一週間の傷を負った女性...。なんの被害も防具も持たない私たちの要求に対して、再び府警・西成署は暴力で応え、私たちの声を踏みにじりました。一彼ら警察官が「おっちゃんにやらせてんのやろ。公衆便所!」という言葉を私たちに罵詈雑言の根底にあるものは、彼らが日々「このヨゴレ」「ゴミ」「カス」といったあつかいをしてきている釜ヶ崎の労働者、おっちゃんに対する暴力差別意識に他なりません。

私たちは、この「国暴力団」大阪府警・西成署の許しがたい差別意識、暴力行為に抗議し、追及することを謝罪要求します!

●写真人物はすべて公務中の警察官です。

# もう許さへん! 府警・西成署

## 情宣班 『3日号外・4日日刊えっとう』について

3日号外、4日日刊えっとうの警官の女性差別、性暴力発言、そしてそれに対する抗議行動を伝えた文章に対して、それを載せた情宣班の考えはどういうものなのか、という声が越冬実会議の中であがりました。この警察の発言をきっかけにした動きの中でいろいろな意見が、対立が起こったこと、明らかになったことは確かです。その中で、今こうしてあらためて1月3日、4日の内容について自分たちの考えを出すのは、それによって自らの立場をはっきり出し、違いなら違いを、同じ点なら同じ点を、はっきり示していきたい、と思ったからです。

3日、4日の日刊えっとうに対する疑問は、特に男性の側から、早い時期に何度か聞きました。例えば、3日のピラについては「あれは個人ピラとして出すもので、日刊えっとうとして出すものでない」という意見がありました。しかしそれは「越冬実で出すのはおかしい、個人でやるならかまわない」ということであって、自分たちが女性からあがった声にショックをうけ一緒に考えていこうとしないで、むしろ「勝手にやってください」と、追い払うものでしかないと思えました。

それは去年の夏祭り、日雇労働者からあがった「ぜんぶの差別におとしまをつけたる」という言葉のあるTシャツについて、議論を充分しないまま「実行委として出すのは困る。有志でやるのはかまわない」と返したことについて、ある人から（人づてに）「それは弾圧でしかない」と指摘をうけた、そのことと同じものと思えました。

だから、3日のピラについても、4日のピラについても、それを日刊えっとうとして越冬実として出そうとしたことは、その意味で「間違い」だとは思えません。ただ、女性からあがった声を「うけとめて一緒に」という時、男性が、自分たちが「一緒に」のできるのか、ということは全く別に、問われることなのだと思います。男性でつくられている情宣班が、女性差別を糾弾する女性の文章を自分の責任で載せるというなら、その自分の立場は何なのか、ということは間違いなく問わなければならないのだし、それは、女性からいわれた、「何で男がやれるのか」という問いに重なるものだと思います。

一方で、3日、4日の文章について、女性から、怒りの声や、異議をきくことがありました。そして、女性差別に対する文章が出て、女性同志が複雑な思いをしていくのに、それを責任もって出したはずの情宣班が、ただ出しただけで、それだけじゃないの、といわれた時も、自分の立場から、文章の内容について、触れないわけにはいかない、と思いました。しかし一方では、女性差別に対する女性の文章に、男性がどういう風に触れることができるのか、普段まるで男性と女性とが対等であるみたいに自分の立場を問わないまま、語れているけれども、考えてみればみるほど女性のそうした文章に対して自分が何をどうして語るることができるのかということをおぼろげに思わずにいられませ

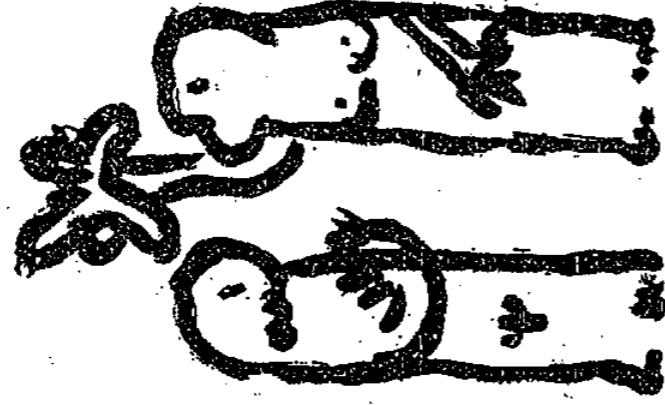
んでした。

3日、4日の中で、読んでいて、これはどう考えればいいのか、とひっかかったのは一箇所あります。それは、3日号外に関して、男性の同じような発言でも、釜の労働者と警官とが別様に書かれているところでした。警官の発言は越冬に対する弾圧として行われたのは確かだとしても、それは現実には女性への性暴力発言だし、それは、警官のというより男性の女性に対する性暴力発言ではないだろうか、そこでは警官と釜の労働者を全く別の立場とする理由はないのではなからうか、と思いました。ただ同じ差別行為であっても警官が行う場合は警察権力の上になつて行うのだから一層あくどいと思うけれども、しかし性暴力ということについては我々警察権力の中にいない男性も、あの警官の差別、性暴力発言、行為と同質のことをしているのだと思いました。女性の側から、「警官のやったことだから抗議に行く、というのはゴマ化しだ」という声がありました。それは普段、権力側にいない自分たちが、女性に対しては一方的な関係を作っている、しかも男同志がそれを批判しあい新しい関係を作っていくのではなく、むしろ逆になれあいの共犯関係しか作れていないということへの怒りではなかったか、と今思います。自分たち自身のことを考えても生い立ちからいっても女性に対する肉体的、精神的暴力を強いてきたのだし、その関係から変わりえていません。だから同様に自分たちの日常が、そのまま女性に対する抑圧としてしかありえないし、それはこの1月2日以降の警察の性暴力発言、行為への抗議行動の中での女性たちとの関係でも思いしらされたことでした。だから性暴力ということに対して、警官と自分たちとが違った立場にいるとは思いません。そして釜に来ざるをえないで来た労働者と、自分たちともその点では同じ立場だとあえていいたいのです。釜に居ざるをえない人間と好きでやってきた、そしていつでも出られる人間とが、全く立場が違うということ、自分たちは釜に居ざるをえない人たちを踏みつけにしているということは確かだと思うけれども“釜の労働者が女性にひどいことするのはそれだけの理由があるのだ”というようなことは絶対にいたくありません。なぜならそれは釜の労働者に対する一層の差別だと思うし、そういう自分の立場を差別の外に置くことだと思えるからです。ピラの中で釜の労働者と警官とが別様に描かれていることについてひっかかったのは、そういうことだからでした。けれどもピラを書いたのが女性だということ、もし男性が警官と釜の労働者を性暴力に関して別様に書いていたとしたら直ちに異議を出したであろうけれども、それが女性だということで、そのひっかかりを、異議とか“それは違う”とかいう形で出すわけにはいきませんでした。なぜなら一つには、釜の中での女性差別というより自分たちの女性差別が、いつも女性の側に女性差別について声を上げる時に、色々な抑圧や消耗を強いていることを繰り返して女性から指摘されておりそれに納得せざるをえなかったからです。いつも通じないことのしんどさや、返ってそれで攻撃をうける（「女性だって釜の労働者を差別している」）でも、誰でも差別しあうことを求めるのではなく、そこから変わっ





性暴力も受けるということか、暴露されたと思います。この二重の暴力を受ける女たちにとって、性暴力こそが、単なる暴力よりも重く、心の傷が深いのだということを、わかって欲しいと思います。だから、「警察官の暴力行為を許さへん会」の名称は、正しくは、「警察官の性暴力を許さへん会」と考えます。  
 (上記のことは、越冬南争訟総括会議中に、指摘しました。今は、「警察の性暴力・性差別発言を許さへん会」になっています。)



KOICHI SAURA 1990

て欲しいのです。

② 4コマは、ほんとうにひどい!

なんで、ほんま物の公衆便所が投げられなければならぬのですか。「公衆便所」という言葉は、女性そのものを卑しめている言葉です。女を「公衆便所」とのしる言葉こそ、女は男の欲望のけ口とみられ、あつかわれてる。「性器」=「公衆便所」にしかみえていない、あらわれだと思えます。女は「性器」ではない。「人格」をもつ女性そのものとしてみて欲しいのです。しかし、このマンガは、「公衆便所」を投げることによって、やっぱり、女性を「性器」としてしかみえていなかったんだなあ……。

★ このマンガの作者と、これをピラに発表したグループを

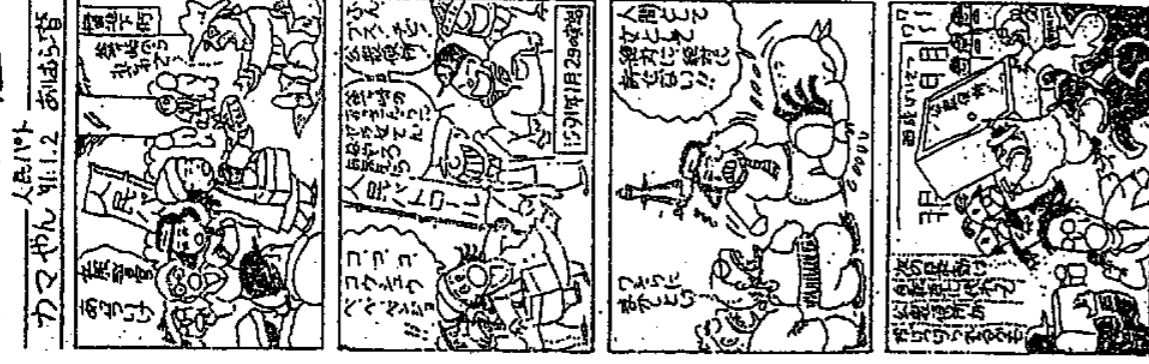
抗議・糾弾します。

1月8日頃

(わてらと窪ヶ崎④)

次のページに続きます。

1月6日にまかされた  
 「警察官の暴力行為を許さへん会」の  
 女性差別ピラを糾弾!!



No.1 (1月6日の「とんちんかしのピラを誹る」)  
 みんなは、

わたしたちは、このマンガがひどい! と思ってる女たちです。  
 ① 3コマにカマヤンが「わしらにまかしとけ」と言ってるけれど、カマヤンだって一度ぐらいは「公衆便所」と言ったことがあると思うんです。男だったら、たいがいムネにおぼえかあると思いません。だから、かんたんに「まかしとけ」と言って欲しくないのです。自分で、他の男たちと変らない女性差別をしている、自分に問いかけ

No.2

No.1のマンガ批判の書かれた(わてら④)のピラをもっとふくませて加筆します。  
 「公衆便所」とは、男たちが、「あの女は、だれにでもやらせる便器のような女」と、女の性器を便器とする。女を卑しめ、蔑視する憎悪表現なんです。(他に、社会的には、もう「売春婦」を指す言葉として男が使っている。)

4コマをみて、わたしら女たちの不快な気持は、「なんて、ひどい!」「いやみなんじゃない?」と絶句、女の気持ちを逆なでされた思いで、怒りや情けなさ、悲しみ、絶望感のごちゃまぜの気分でした。「ああ、これこそ男たちの本性であり、女への見方・発想そのものだ」と感じたものです。

しかし、「警察官の暴力行為を許さへん会」の女たちも、このマンガの女性差別性に気づかぬまま、梅田地下街でまいてしまったことが、わたしらを二重に傷つけたのです。1月6日の夜のニュースで、TVのアウンサーが、「このデモは、西成の『あいりん地区』で、警察官に支援の女性が、『娼婦』ぶぼわりされてこのことに抗議しているデモ……」というニュースで放送されましたが、奥にこんなふう放送されるピラの内容だったからです。

もうに「娼婦」といわれ、蔑視、さげすまれて、「公衆便所」「便器」あつかいされている女たちを、日夜生活の中で、それがいいから、「私設便所」「便器」あつかいされている女たちが、「あの女たちと、わたしたちは違わねえ」と差別してヒラをまいたのと、今回のことは何ら変らないからです。どちらであらうとも、男たちが、わたしたち女たちを「おまえらは便器だ」として、モノ扱いしているのに変わりないのです。それか、どうして「許さへん会」の女たちと、こんなにも違ってしまったんでしょうか。それは、あのヒラをつくった女たちの根底に、「娼婦」といわれている女とは違うわという差別意識がひそんでいて、優越感という差別的なプライドがあったんじゃないかと、思わざるをえないわけです。彼女たちが、優越感をもっているからこそ、痛みを訴えてくれるわたしたちを踏みつけて、差別する男たちと、今もいっしょに権力闘争をやってゆけるのです。彼女たちは、本当に、痛みのもとで怒ったんか！ 今もって、わたしたちには伝わってこないんです。わたしたち二重も三重も否定されつづけています。

今回のことでは、女たちが、自分のことを「私設便所・便器」として認識・自覚しているかどうか、問われているのです。この男社会では、男たちが、女たちを「娼婦」と「自分のモノにした女（妻・恋人）」を、巧妙に分断・支配している構造があつて、自分たちに都合のいい、性の肛口として使われているの

### 三

です。わたしたち女は、金銭的に「長期契約の私設便所」と「短期契約の公衆便所」との違いをしかねないので、わたしたち、「愛している」なんて、甘い言葉でごまかさね続けています。

男の性は、いつでも、どこでも加害者です。毎日の生活の中で、つれあいと、事あるごとにケンカしているのは、このことにつきまします。わたしたち、わたしたちに15年つれあってきた男と、ののしり、わめき、泣くのくり返しをしているが、相手は、男女平等を、外に論理的に証せる「活動家」だったので、信用も厚く、もっとも賢が悪かった。「そんなこと小さな問題だ！」「なんで、そんなに感情的なんだ！」などなど、男から投げられる言葉の1つ1つに、傷ついてきたのです。すごいケンカの後々でも、「愛している」と言うごまかしでセックスしてしまふ屈辱感……。片方を求める女でも、セックスだけは、男に「男性的」であつてほしいとねがう女側の意識の問題やら、さまざまなお考えをいいます。

わたしたち女たちは、「エロスの存在としての自己」(小浜さん)を発見しつつ、女の自分を好きになるように変わつてゆきたい、そして、今回のことを通して、男たちに気づいてほしいのは、どんなに上手に、掃除、洗たく、家事をしたって、男け女に、性のところでは、いつだって加害者であつて、つれあいど「便所」「便器」あつかいしていることを自覚してほしいのです。いくら男女平等をうたつて、家事労働をやつてゆこうとも、自分の性のぬぎに

踊る女性差別闘争なんか信用できなないので、これは女たちも同じです。

マンガの中で、男が、毎ん手物の「公衆便所」を平の道具として投げる行為は、自分の「もち物」である男根も道具にしか感じられていないし、道具にしひ思つていない男の意識のあらわれではないでしょうか。(男って、なんでさびしい性なんだ)

以下の、小浜さんの文章は、このことに答えています。

3月16日

わい巻 ④







# 冷メシ短信 1990.12.27

①根暗のぶっさん

パチンコ・競艇・マージャン・勝利の女神に見放され、オケラになったその晩は、一人淋しく湯を沸し、冷メシ茶漬で流し込む——冷メシ短信オ一号!?

私を知っている数少い仲間、知らない多くの越冬に参加されている皆さん! 私は毎日酒と博打に明け暮れている釜日労の三流組合員であります。

釜での日雇い生活も15年になろうとしています。越冬も4回目から参加しています。(参加しなかった年もあります)

その昔、花園公園でテントを張ってやった時は、今と比べるとずいぶんよかったです。

以下老兵のぐちと思って読んで下さい。

ここ数年来、越冬斗争の過程で仲間を獲得する事がほとんど出来ていない。むしろ回を重ねるにつれて組合員が減っていく。越冬だけに限らず闘争仲間、特に現役層の仲間を獲得する事が大変むづかしい時代になっています。(組合以外の諸団体では違うかも知れませんが)15年前の月刊越冬を見ると、明日は我身という事がよく書かれています。当時はいつ

自分かアオカンするほめになるかも知れないという状況があったわけです。

今、明日は我が身、アオカン層も仲間や、助け合って行かなあかんと言っても、それだけでは、暖房のぎいたドヤから出て来て、人パトや、警備やらかという労働者はなかなかいないと思うし、もちつきや、ソフトボール、ロックバンドなどに参加してくる労働者の中なら共に闘う仲間を育成していくという事も非常に遠いように感じる。

ではどうすればいいというのか。17年ぶりの暴動がそのヒントを与えてくれると思うのだが、敵権力に向って行くエネルギーと、仲間同志、助け合って行こうという考え方は必ずしも合致するものでないと思う。以下次号(?)

## 釜ヶ崎越冬小史(11)

77/78 第8回越冬

77年5月認定支給額は2700円から4100に値上りする。しかし釜の景気は停滞、炊き出しを利用する労働者は倍増する。(この年は釜日労による通年炊き出しが行なわれた)

6月柳井建設(大正区・人夫出し)で12名の労働者(出稼ぎも含む)が焼死。不況時の特徴である、タコ部屋半タコ、の被害者が続出する。10月アオカン労働者が自炊のふぐ中毒によつて4名死亡。いずれも30才代であり当時の不況の深刻さがわかる。(私自身もケタオチ人夫出し飯場に入ったりした)

11月21日ドヤ「新大阪」の火事で労働者2名焼死。「これ以上殺されてたまるか」の決意のもと越冬期を迎える。

11月20日越冬実結成。11月30日萩之茶屋中公園(海運公園=西成署裏)使用許可申請に対し、公園局より不許可の回答が届く。12月13日突然公園が全面封鎖される。(これで釜の公園が三つ封鎖された事になる)しかし、炊き出しは市民館前で続行され、夜からは医療パトロールが開始される。12月25日越冬斗争突入。(この間炊き出し作業拠点となつていた野鳥の会(飛田方向)が、西成署・大家

のいやがらせによつてガス供給が停止され、使用不能となり、希望の家で行なわれる事となる)

29日南港臨泊の受付が開始される。ガードマン・機動隊の常駐、市更相での受付時の厳重な監視・選別が一段と強化される。市民館前での炊き出し、医療センター一階での布団しきを中心とした越冬活動も年を越す。

1月4日大阪市糾弾斗争、臨泊・アウシユビツツ化・公園閉鎖を許さず。1月10日、市の越冬対策・宿泊所が打ち切られる。

臨泊での結核による死、医療センター一階での原因不明の死、行路病死、数多くの死者を出す中で2月にいたる。仕事は少しずつ出てくるも青カンは減らず。

3月1日、前日に続いて長期の越冬は終る。今越冬中、多くの政治斗争に取り組んでいる事が特徴的である。11月28日、山谷・寿・笹島・釜の全国青場共斗で、労働省交渉。1月29日、刑法・刑訴法改正阻止全国総決起集会(東京)、2月16日鈴木国男(元釜共斗活動家)虐殺2周年糾弾斗争(大阪拘留所)、2月21日関西刑法改正・保安処分粉砕連絡会議結成集会(大阪部落解放センター)等。日刊えつとうの連日の政治記事内容に「カタクテ・ムツカシスギル」との労働者の声も多量にあったようだ。

# 釜めし通信

1991.1.1 中村朋太  
新年特大号

前の釜めし通信1号を出したのが25日。  
私達が釜に来てもう1週間たちました。  
そこでその間に感じたこと思ったことを  
「釜めし通信号外」として出すことにしました。  
釜めし通信はいろんな所で出会って集まった。  
「叩かいば仲間選」の中で書きたい事が  
ある人が勝手に書いてあるビラです。  
私選はこの「釜めし通信号外」が  
去年と今年をつなげるビラにすれば  
いいと思います。



「おまえら口だけや」と自分に言つたおちえんがいた。  
「言うだけならほんほでもできるんや」と言った。  
それは確かにその通りだ。筒川の学生は「連帯する」とか  
「共有する」とかよくビラとかで使えし。自分も「共に闘う」  
とか言うけど、実はどうやって「共に」を作っていることに  
なるのか、よくわからないういはい。  
けど、もうひとつ確かなのは、おちえんらの抱えている  
いろんな問題は、おちえんらのものだけではない。ということ。  
自分にも、「支援」の学生にもあるものが、いろいろと違  
う形で出てきているものだ。  
それに對して自分が「嫌だ」と言つて叩くこと、抜擢して叩  
くことは、どこかありまのことなんだらう。  
それに自分が「学生」だとか「労働者」だとか、行政の  
やるみないなレトリックを自分で使つて、自分で壁をつくら  
いたら、それこそ権力の思いつボトだ。  
釜に来る前からどれたけだ、とかそんなことではなくて、  
要するに自分が普段つきあっている友達と同じように、  
おちえんらと接すればいいんだらうし、やうできたら  
「共に」を作ることができるようにがんばらう。  
釜どうかより、釜どうしたいのかを言えよう！



私、ここで何してんだらうって毎日考える  
きのう菓子屋でおばちゃんに  
「こんなところで親切しとって労働のムダや。こんなとこ  
こんでももっと別の援助の仕方あるでしやう。」  
って言われた。  
「私たち、してあげてるんじゃない。  
やりたからやってるんです。」  
けどわかってもらえやうにない。  
「こんなこわいときにおちえん心配せへん？」  
何も言うことができないから「なんだけど、ほんとうに  
こわいのよ。復讐だけみたくらった権力を使う  
人たちがだと思ふ。  
私の手も足も声も頭もみんは自分の意志で自分の  
にやるとはんだ。  
いろんな事を自分で見て自分で感じて自分の感情が素直に  
口をついてでてくるようにやたらいい。  
高いたいことは、自分しか言えはいて思ふ。  
自分じゃなんにもできはいて  
自分がやらばさや誰がやるの？  
ここでは日常、私の身のまわりの生活では起こりえない  
ようなことが毎日のようにあるのに驚きます。  
私がいままいかに「便利で快適な」と言われる社会  
によって、感覚に慣らされてくるといふことが痛いほど、  
また

もう釜にきて4日自だ。考えることが求山ありすぎて結局  
頭がぐちゃぐちゃ。  
「わっしょいデモ」も医療相談もずい班でおべんご  
作るのも初めてのことだから、ほんまよくわからはいてことが  
多い。けど感じたこと思ふからここに書いてみる。でも「体  
荷を感じたんだらう。まいにちまいにち明きらから  
瞬間がすぎているって書いていこうとは感じてるだけやけど、  
ちゃんとじぶんの中にとけこんでいるんかあ。わっ  
しほあんまり人と話するのが苦手で、たぶんかとはぼし  
ても、どこかでとけこんでいっている自分がある。けど、  
ここにいるとみんなおちえんは腫れあがくと声かけて  
くれて、こんな力たしてもゆくりと話すことができない。  
それほものすごい気持ちやがやする。  
医療パートに行つて考えた。じっくりと釜の中を歩いて  
いると、私の中の人と人が開けてゆく、むき合つて  
ゆく感さを感じる。ほんま、街の中を歩いていこう時、  
ほんま、人が暗闇の中で息を吐き出しているのよ。それほ  
気づかずに歩いてしまふんじやないかとあててしまふ。  
それは、何ほか今、覚えていける。ああ、もう、1991年  
なつてしまった。11日まで、頭ぐちゃぐちゃ。しほがら  
かんばるあつと。 ちるう

12月5日

うらめしき雨。

夜 9時すぎに一日元気良くあそんでいた娘が“しんどいしんどい”と言いだしたかと思うとゲロゲロ吐いてしまい、パトロールに出ようかどうか迷ってしまいました。吐いたあと少し落ちついてきているので、おかあさん行っってくるからねとほさいねと話しかけたると“うん”と言ってくれたので、決心して出かけた。

9時半少し前 もう集まっているかかと 雨の中を自転車を走らせ、三角公園を遠くから見ると、たき火を傘が囲んでいました。センター前に着くと、人ばかり、ほとんどしぎが、始まるうとしていました。まわはくMさん、そしてリヤカーを引いてMさん、Bさんがニコッと笑って、私の姿を確認してくれと、ちょっとモヤモヤしていたものもアツとんでしまいました。人混パトが遅くなっていてのこと、10時10分前になって人も少なくなりました。10時もおわって、うん、人がふえ始め、少しほっとしました。仏現寺公園まで水筒の水を入れに行った帰りに、オノ住宅の下の自販のそばで、ひのオッチャンが何もかへすに横になってはるのが目についた。なので、センターまで行って休みませんかと声をかけると

行きたいと言われるのだから仕方なく、他の人を呼びに行きました。病院に連れて行ってきてと話しつけて、たいてい、どこかの病院に入ってしまったのか、とんぼの体論がと聞く余裕はありませんでした。

今夜は自転車で回るコースEMさんと徒歩で回りました。雨で、寝てる人は少いようでした。Mさんか、せめてのぎ下で寝てくれる、たらいのいいのねと、回り始め、ポツンと言っていました。三角公園を他のパトの人たちと合流、またふたりで自転車コースを歩きながら、家族のことなど話しました。花園公園の南側の建物の軒で、ひとり寝てはって、私に聞こえて“こんばんわ”と声をかけてしまいました。Kさんは、体にかけてある毛布にさわれて、雨がしみ込んでいるのを確認してから声をかけ“ここでいいですか?”と話しかけた。いのを見てハッとしてしまいました。なんでもいっから声をかけて起こしてしまえ、反省しました。

南海ガード下、センター西側下も、きつと他のパトの人が確認しているはずだから声をかけると、うん、は、やはり可々と状態を知らない、Kさんやじと思いました。

パト後の集約。みんながぐっしょり始め、ほって、でも話可人に集中してしまいました。雨のためセンター下はもうあふれんばかりの人でした。Kさんより、パトが始まった25日以後に

1990年1月5日

西成に引越して来た時から“毎の西成に参加したいな”という想いを抱いていました。子どもが小さかったから、新築のうちに年末年始が過ぎってしまったから等々、理由はいろいろでもあつたのですが、今にして思えば、自分の腕の硬さ、行動力の無さのせいで、年月を過ごしてしまいました。でも、ようやく一昨年の12月、息子がパトロールに出るようになりました。始めこのパトロールに、少々興奮気味で、寒エも手伝わって足がザクザクしていたようです。三角公園のそばのゴミ袋の山の影に瞬くおぼれたおっちゃんを見つめた息子の声と、最初はイヤヤと言っていたのに、最後には匿禱センターに行く事になった時のホッとした嬉しさ、何でも可く思い出してしまつた。日この頃なのに、何故かとてもよく憶えています。そして、三角公園の片隅で、ぬれた毛布に覆られていている人に、誰かの“こんなところで、寝てたら死んでしまつて——”の声に、

(さつき)

3人の人の死が確認された話を聞きました。みんなが黙とうしました。バスの後で弱ってほって、亡くなった人のことをKさんかかみしめるように話してほったのが、雨といっしょに、心の中にじわじわとしみ込んできました。

心身共に、私にとってほしんどい重い3日のパト。でもパトロール出発前に見せてもらった山田真さんからの手紙は、また元気だそうと、励まされました。

“死んでもええから、ほっていいてくれ”の答え、言葉を失ってしまいました。それでも、他の人達は抱えてい子のか、それほどの対応をしてい子でしたが、私には、とてショックでした。その後のパトロール中に、何人かの有カニの人の口から出た“死んでくれ”“ほっていいてくれ”の言葉に、何可く可く立ちつくしてほった3日の私、私達はほっていい子ととほしてほ子のほらうか、何れも来るのほらうか。強烈な初体験でした。





# 釜ヶ崎越冬小史(12)

78-79 第9回越冬

78年4月釜ヶ崎解放会館設立、釜日労の新拠点となる。9月萩之茶屋中公園の鍵がはずされ公園内に戻って炊き出しが続行される。

(この年、昨年に続いて通年炊き出し)

10月暴力飯場・中島組斗争で組合員3名逮捕される。中島組はぶつつぶしたものの2名が起訴され越冬期を迎える。12月11日、一時金支給時、越冬カンパ67万円集る。

12月16日越冬斗争支援連帯集会。

釜ヶ崎差別治安弾圧を打ち破れ!

日雇労働者使い捨て「行路病死」を許さんぞ!

・仕事よこせ、病気の仲間を入院させろ!

・政治反動と戦争への道を打ち砕け!

12月22日、海軍公園・花園公園・仏現寺公園が施設され、再封鎖、越冬つぶし攻撃が始る。

25日越冬突入、炊き出しは市民館前、布団は医療センター前で行なう事となる。同時に当日、職安斗争、白手帳の新規取得・更新・再発行の際のしめつけに対し、窓口交渉を貫徹。

1月4日大阪市に対し、殺人行政科弾圧斗争、その後、南港宿泊所で、面接を要求。仲間の隊列に機動隊がおそいかかり、越実委員長と労働者1名、「建造物不法侵入・公妨」で不当逮捕される。1月6日に2名釈放。

1月7日、医療班・キリスト教越冬委員会による病院訪問、14名中13名が結核で入院、羽

十二月二十五日(火)

来年も来たい。

寝る場所をウバわれているのが(フェンス)現実のものとして分かった。相変わらず野宿者が多い。行政が悪い。

八十六年や八十七年に来た時は南海のガード下でアオカンしている人が大勢いたのに、フェンスやブロックのへいが出来てからは、アオカンしているひとの姿が減ったような気がする。皆、地区外に追いやられていくのだろうか。

十二月二十七日(木) AM. 2:50頃

仲間から連絡を受け医療センターまでゆく。

話の内容によれば労働者同志2、3名で酒盛りをしているらしく仲間が

見たときはすでになぐられたあとでありTBSL入れている時、同志2、3人はにげてしまいい見付からず(内2人レイ酔)。

労働者(自称するさん)の状況

くちびると腔内を切っている様子だった。本人は『手帳と現金をとら

れた。手帳だけはなんとかしてほしい』とのこと。

十二月二十八日(金) 医療班

労働者と話していてシノギに会っている

年より多いのでは、と感じた。

越冬参加も千回目になりました。医療班では始めてアオカン者駆逐

のための地域のイヤガラセ(フェンス、水まき、自警団)が目につい

てきた。きょうが初めて、経済大園日本の裏の世界を見たような気がする。

十二月二十八日(金)

何も役員を持っていない人にセンター前にゆく横声をかけたが実際に足

る状況に腹が立った。アオカン者は寝るなどしめだしを徹底して行っ

てた。今日は弁当を持って回った。が、中身を知らないの、それが気になっ

た。『おつちゃん、おにぎりやでー』とか、少しは知っている

コトを反省。でもそれ以前に出会った野宿者の数がとても少なかったの

が気になった。

2月6日中島組斗争の逮捕者2名の保釈を勝ちとる。警備班・医療班・炊事班等、多くの

仲間の努力で越冬も終盤を迎えるも、死者は3名、シノギの横行もあり、負傷は多数。

2月27日、日刊越冬2月27日号では、具塚中央病院でのリンチ失明事件が報告されている。釜ヶ崎差別・精神障害者差別に基づいた保安

処分の典型であり、精神病院のタコ部屋体制患者に対する露骨な暴力支配管理体制の結果、

被害者は、歯を折られ失明させられている。越冬後の課題として、保安処分攻撃粉砕の闘

いが提起された。2月28日越冬終了、炊き出しは回数減らし通年体制へともどる。

曳野病院、阪奈病院、島田病院、相原第二病院、いずれも設備・診療体制・食事等、不十分であり、医療行政が「金もうけ第一主義」の民間病院に委託・依存し責任転嫁している結果である。「釜の近くに釜の労働者が入院・療養できる総合病院を行政が建てる以外に問題の解決はありえない」と訴えている。

(日刊越冬1月8日号) 1月31日、2月8日、医療センター前で青カンのアンケート調査が行なわれる。調査項目は多岐に渡っているが、年令は40代が最も多く39人。出身地は、大阪が14人で一番だが、全国各地から釜にきている。釜での生活歴は10年前後が最も多い。職種は土木が多く44名等々。

2月6日中島組斗争の逮捕者2名の保釈を勝ちとる。警備班・医療班・炊事班等、多くの仲間の努力で越冬も終盤を迎えるも、死者は3名、シノギの横行もあり、負傷は多数。

2月27日、日刊越冬2月27日号では、具塚中央病院でのリンチ失明事件が報告されている。釜ヶ崎差別・精神障害者差別に基づいた保安処分の典型であり、精神病院のタコ部屋体制患者に対する露骨な暴力支配管理体制の結果、被害者は、歯を折られ失明させられている。

越冬後の課題として、保安処分攻撃粉砕の闘いが提起された。2月28日越冬終了、炊き出しは回数減らし通年体制へともどる。

十二月三十一日(月)

毛布をもう少し多く持ってゆくとよいと思う。声をかけセンター下にゆこうといったけれどゆかない人がいた。雨のとき特に暖かいお茶を渡しておきたい。

九十年十二月三十一日(九十年十一月一日)

今日、事務所の常駐で6時ぐらいに事務所について、食べてマンガとか読んでうたた寝して、買ってきた弁当をうとしてみると血相を変えて学生2人がやって来ました。『2Fや』私は3Fの男性支援部屋で常駐しているつもりだったわけです。九十年最後の最後までどうしてこんなドジばかりノートに書いてしまいましたか、年とともに忘れてもらいたいものです。しかし、どうも私は忘れない。柳

一九九一年一月一日

釜内とちがって単独でいる人がいるので何かあったとき心配。目が行き届かないので近くについてあげられない。世話したい。政の対応何ともいえない気持ち。昨日に比べて布団があまったのでよかった。常にかかわってきたい。対行

### 釜ヶ崎越冬小史

79/80 第10回

11月センター開所以来最高の求人数に到達(公共事業が主体)が9割を占める。建設・運輸は激減。

12月14日越冬斗争支援連帯集会、

「越冬斗争は資本と国家権力がもたらす釜ヶ崎の冬地獄の中で主要に高令病弱「障害」の仲間が、「行路病死」攻撃をかけられる事に對して、差別分断を打ち破り仲間の斗いに結合する中で、1人たりとも仲間から死者をだすことを許さない決意の元に取り組みむ闘いである。」――基調より――

12月25日海道公園での1日3食の炊き出し、医療センター前での布団敷きが始まる。

12月28日結核問題で西成保健所・環境保健局に要求書提出、交渉をもつ。釜ヶ崎被爆者の会、釜ヶ崎結核患者の会、キリスト教釜ヶ崎越冬委員会と越冬実。当局側は釜の結核をなくしていくという姿勢にはほど遠い。

12月28日夜、布団敷きの為医療センターに移動中「違法デモだ」と1名不当逮捕。(30日完結で釈放)

29日南港臨泊受け付け開始、当日は400名入所。市更相の差別的な窓口規制と、臨泊の治安管理体制は去年と変らず。

1月3日団結もちつき大会。

5日山谷越冬実より、緊急連絡が入る。神奈

一月三日

医療パトははじめてで、弾する決意をあらたに。初めての参加だったし、最初勇気がいったが怒りがだんだん出てきた。路上で寝ている人の中にもすごい孤独をかんじた。もっと話しかけて上げてくる。怒りが腹の底からこみ

二回目の参加今日は寒さがきつくて寝ている人も大変そう。

アオカン者に対してとても冷たい町だという印象をうけた。どこでもうなんだろうけれど、今日特にいろいろなものを思ってた。

一月六日

寒いから何かあったかいものをもっていてあげたい。商店街沿いをまわるので少しまわりにくいと思つた。天博でおいたてをされた人の話が一番頭に残りました。この冬初めて来たので何もかも勉強です。

川県の大井臨時収容所(釜での南港臨泊にあたるもの)での斗争で6名が不当逮捕、200名の労働者の結集で都庁、山谷対策室を包囲・糾弾デモを敢行。(当時山谷越冬実は山谷日雇労働組、山谷統一労働組、6・9救援会の4団体で構成) 23日中間報告集会、市民館に130名参加。山谷日雇労働組の仲間の斗争報告、全陣連のアピール、2月末まで越冬責務を確認。しかし、2月に入って、釜日労内部において西成分会一時金天引反対訴訟をめぐる、路線対立が発生、後に訴訟継続派が別組合(現釜ヶ崎地域合同労働組)を作る事になる。内紛の反映か、2月中旬で越冬は打ちきられたらしい……。私のファイルには「日刊えつとつ」2月4日号までしか残っていない。さて、1月中旬の「日刊えつとつ」には労災シリーズが連載されています。労災にあった場合の手続・治療・休業補償等、じつにくわしく書かれています。労災の法律知識はくり返しくり返し情宣していく必要があります。1月6日・17日の2日間は文化体育班によって、かまがさきこともよこちょうが催されています。越冬中に子供を対象とした行事が行なわれたのはこれが最初だと思います。越冬と子供という視点は次回越冬に引きつがれていくのでしょうか。第11回越冬報告を待て。

## 編集後記(N)

何んでこんなに時間がさかれなければならなかったのか…  
こんな体制ではあかんと思いつつ…  
本当に多くの仲間に御迷惑をおかけしました。  
そんな反省を具体的に出し合って今後の実行委体制、とりわけ次期夏祭実からでも返していきたいと思っています。  
つまる所、人間関係=信頼関係=責任関係があげられます。  
どこに自分という立場があって共同斗争、支援関係が成り立つのか、各々の運動における関わり方があると思うのです。  
そこらへんから覗いていきますと、実行委体制自身が責任者を作り出す関係ではなくて、あたかも自分が主体であるかのように振る舞うものだから、全くカジの取りようがない運営を余儀なくされてきたといえます。このような体制で起きた諸問題も3~4年続いています。責任者に対して、統括する姿勢が全体になくて、俺が私が進むものだから、おさまるものもおさまらないで分散するばかりでありました。  
釜の主体は釜ヶ崎労働者であります。運動体の主体が、運動を担う仲間であり責任を取る指導体制であります。そんなわけで一人ひとりの立場が当然あります。自分は何者なのか、何ができるのか、そんな一人ひとりの力を出しきる方向で団結を深めていきたいと思います。  
人間関係が不成立なのは、利害関係とか価値観の違いで分けるのではなくて、違いをはっきりさせることをもって自分の役割を果たしていくべきだと思います。

(1991年7月)

一月九日

医療パトロール・山王方面をまわって  
野宿者の状況はほとんど変わりがないが、変わりがないが、  
本気で立ち上がったらすいだろう。もしこの方々が社会の不正に対して、  
マルシェの手前にいる女性にあうと、複雑な気持ちになる。  
『どうですか』と声をかけていっても、向こうはすく警戒する。しばしば男性  
もつらいが彼女はもっとつらいだろう。布団も何もいらぬという。僕  
もその参道周辺で寝ている人が私服警官におだやかな口調で次のよう  
に頼まれたという。『今日はえびすさんだから、どうか人目につかんと  
暴動があったため私服も気を使ったのだからいくら『丁寧な頼み方を  
とを確認しておきたい。』その人は納得しないまでも、無用な対立を避けるべ  
い

## 総括集に向けて

酒とギャンブルのあい間にやっと小史第10回  
越冬まで書きました。11回以降は次の機会に  
書く予定(?)。私事で恐縮ですが、越冬中  
に書いた私信「冷メシ通信」の2号を期待す  
る声が少なからずありました。当時問題にな  
った女性差別事件について感想を書いたので  
すが、ギャンブルで儲けて飛田に行こうなど  
と不埒な考えをしている者には発言権はない  
と思ひ、やめました。きれいな事ばかりではな  
く、飯場の精算日に「飛田直行や」という労  
働者がいるという現実をはつきり語る者がい  
てもよいと思ったりしたんですが……  
「釜メシ通信」の次号が出た時、又又そのパ  
ロディをと考えています。

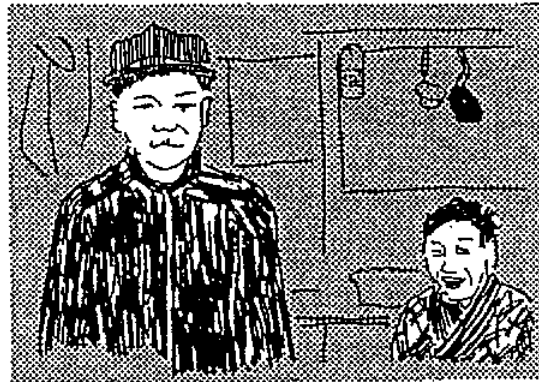
(1991.5.21 12F住人①)



越冬

橋安純

一年に一度 俺たちが主人公 公園でたきびをたいて オマワリは追い返す	仲間が集まってくる  俺たちのために 芝居をやって 映画をやって 炊き出しをする
公園のすみでひっそりと 地下道のまじでひそやかに 橋脚のしたでひめやかに アオカンしていた俺たちが	俺たちのために たきびをもやし 布団をひいて アオカンする
たきびを消防団に消されたり アッチに行けと住民に追われたり オマワリに不審尋問をされたり そんなことをされていた俺たちが	燃えるたきびはアカアカと 俺たちの顔をてらしだす 手をかざし煙に目をほそめ ほてって紅潮するホホ
一年に一度 この越冬で 公園を占拠して オマワリは追い返す	しわのきざまれた顔 疲れきった顔/眠たそうな顔 すすでまっ黒な顔
一年に一度 仲間が集まる 労働組合の仲間が 大学生の仲間が	そんな俺たちを いくつものカメラがねらってる 一年に一度/俺たちが主人公
ふだん会うこともない 若い青年や インテリや 女の人が集まる	
一年に一度 まともに 俺たちの話を聞いてくれる	



発行日 1991年 8月 1日  
 発行 第21回釜ヶ崎越冬闘争実行委員会  
 大阪市西成区萩之茶屋2-5-23 釜ヶ崎解放会館 2階  
 06-632-4273  
 頒 価 700円